## たった60日!衝撃の速醸造法…日本醤油醸造

日本醤油醸造は、1907年(明治40)6月、静岡県出身の発明家・企業家鈴木藤三郎らによって創立された株式会社です。従来の醤油醸造法は、諸味仕込みから醸造まで1年~1年半を要したのに対し、鈴木は「鈴木式60日の速醸造法」を開発しました。それはたった2か月で醤油ができる業界衝撃の醸造法でした。資金協力をしたのは、北浜銀行頭取岩下清周・川崎造船所社長松方幸次郎、鴻池銀行・百十銀行など、そうそうたる面々です。鈴木は、東京小名木川工場の外に尼崎第2工場を1908年9月向島に開設しました。何と何と、敷地約2.8ha、年産公称24万石可能という超巨大工場(当時日本最大のキッコーマンが約6万石程度)でした。1909年5月、京阪神地域に福引商法をもって大々的に需要者に直接販売しました。しかし同年11月、当時食物添加を禁止されていたサッカリンの使用が発覚し、約2万石の醤油の処置が問題となりました。内務省より「危害なき程度に於て相当処置」せよとの通達があり、善後策を講じていた矢先、1910年5月27日夜半工場より出

火しました。製麩室など9棟約1万9,027m2の建物が焼失、製成醤油約22 kl・諸味約3,242klが被害にあい、当時の金額で約200万円もの損害が出ました。失火原因については、職工の不仕末・電気の発火・放火説(大阪朝日新聞1910年5月30日)などあり、これを契機に経営不振となり、ついに同年11月解散しました。このように同社はわずか4年間で倒産しましたが、その創立にあたっては醤油業者にも大きな刺激と覚醒を与えたという意味では、役割は大きいものでした。旧態依然としていた業界に一石を投じ、技術革新の風を吹き込むこととなったからです。ちなみに現在単一工場としては世界一の規模を誇る「キッコーマン高砂工場」(兵庫県高砂市)の建設は、日本醤油醸造に触発されてのことと一説では言われています。高砂工場は、キッコーマンが全国規模の大会社に発展するきっかけとなった工場ですが、日本醤油醸造の創立がなければ、実現していなかったかも知れません。



出典資料:Web版尼崎地域史事典『apedia』 写真提供:尼崎市立地域研究史料館



















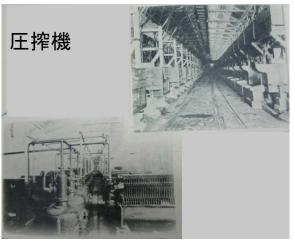


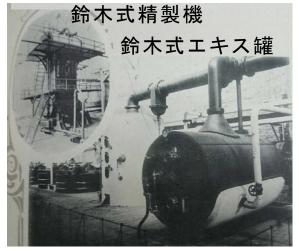
力士 五十嵐の「日本醤油」化粧回し(尼崎市教育委員会歴博・文化財担当所蔵)

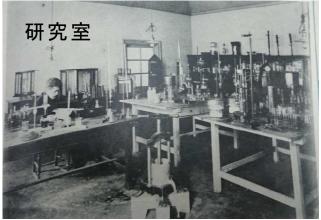














食塩溶解機





負債整理 解散始末

